

科学新聞

週刊

(金曜日発行)

発行所 科学新聞社

本社 (〒105-0013)

東京都港区浜松町1-2-13

電話 03-3434-3741

FAX 03-3434-3745

mail:edit@sci-news.co.jp

振替 00170-8-33592

購読料 1ヵ月
2,200円(消費税込み)

日本工学会アカデミーが提言

井上科学技術担当相に提出

日本工学会アカデミー(小林喜光会長)は5月19日、博士後期課程大学院生への支援強化を求める緊急提言を井上信治科学技術政策担当大臣に提出した。授業料の廃止、生活費相当額の支給を求めるとともに、キャリアパスを明確化するために産業界と大学との連携などに取り組む。井上大臣は「小林会長から受け取った提言の中心は政府の考え方と一致する。しっかり受け止め、実行に移していきたい」とのわけ、大学ファンドの活用、キャリアパス確保が重要と考えている。アカデミーや産業界と協力しながらしっかり取り組んでいきたい」と話した。

授業料廃止

生活費支給

工学アカデミーでは通常、各委員が問題意識を持って議論を進め、ボトムアップ型で提言をまとめるが、今回の提言は、小林会長の発案で検討が始まったという。3月まで総合科学技術・イノベーション会議有識者議員を務めていたことや、自身も日本の企業経営者としては異例の理学博士ということもあり、常々問題意識を持っていたという。

近年、日本では修士課程から大学院博士後期課程への進学が激減しており、これが研究力の低下に拍車をかけている。研究力を再び向上させるためには、社会の多様な課題に挑戦し、基礎となる知識を踏まえた上で柔軟な思考をすることのできる優秀な博士人材を確保し続ける必要がある。

緊急提言では、日本の博士後期課程とそこで学ぶ博士後期課程大学院生の社会的な位置づけを根本から見直す必要があるとして、大きく4つの具体的な提案を行っている。

1つ目は、博士後期学生を研究者として位置づけることだ。博士後期学生は、「学究」という段階から「自立して活動する研究者」へ移行する遷移期に位置づけられ、海外では博士課程研究者という表現も使われている。そこで、欧州と同様に授業料の徴収は行わないこと(米国の有力大学は、を目上、授業料はあるが学生が支払うことはほとんどない)、標準修業年限の間は生活費相当額を支給し、支援する学術分野を問わないことを求めている。

次に博士後期課程の改革を進め、研究者として研究に打ち込む時間を十分に確保するとともに、世界の研究者

位置づけは「研究者」/産業界と連携でキャリアパス確保

1クルの中で切磋琢磨し、次代を牽引する人材へと育成するための環境を整備する。博士後期課程の運営経費の支援については、定員の充足状況に左右されることなく安定的な支援を行う。また、適格性を判断した上で学生数の3分の2程度、修士課程からの進学者については全員を支援する。支援金額は、日本学術振興会の特別研究員(大学院博士課程在学者)事業では年間240万円となっているが、その倍額程度の支援を実現する必要がある。

こうしたことを実現するための財源確保については、大学ファンドが運用益を出すまでのつなぎ事業としての位置づけもあるJST創発的研究推進基金の活用による支援や大学フェロニッップ創設事業による支援に加え、他の政府関係機関からの支援、在籍する大学からの支援、民間資金などからの支援など多様な財源を動員することが望ましい。また大学ファンドの運用益が出るまでは、数百億円規模の予算措置を講じる必要がある。同時に大学自身も民間資金の取り込みを行うべきだとしている。

博士後期課程修了後のキャリアパスについては、2つの方策を示した。政府と大学には、多様な資金を活用した若手研究者のポスト拡充とデュアルトラックの定着、シニア研究者の定員ポストの流動化(クロスアポイントメント制度の活用や任期付き雇用への転換促進など)による若手デュアルポストの増加を求めている。一方、民間企業などにおける長期有給インターンシップの推進、論文の指導、審査への産業界等の出身者の参加など、博士後期課程在学中から社会を知ることのできる機会を幅広く設けておくことが必要だとしている。

これまでの日本の政策は、部分最適の集合であったために、全体で見るときにひずみが生じてしまっていた。今回の提言も踏まえて、博士課程の定数管理や授業料収入と運営費交付金配分との連動、大学経営のガバナンス、慣習や規制など、多くの課題を構造化した上で総合的な政策が求められている。

3度目の失敗許されず

今回の提言の背景には非常に強い危機感がある。提言を取りまとめた関係者は「大学院重点化で失敗し、ポスドク1万人計画でさらに失敗した。大学ファンドの創設という好機に3度目の失敗は許されない」と話す。